

Vol.150 「子ども時代に伸ばしたい非認知的能力」

近年、「非認知的能力」の育成に注目が高まっています。「非認知的能力」とは、IQ（知能指数）や学力など数値化できる認知しやすい能力とは異なり、忍耐力やコミュニケーション力、自信や楽観性などの数値化しにくい能力と言われています。では、社会に出てから「非認知的能力」は必要なのでしょうか。今回は、20～60代の社会人を対象に「非認知的能力」の認知度や仕事をする上で必要だと思う力、子どものときに伸ばしたいと思う力について調査しました。



調査概要

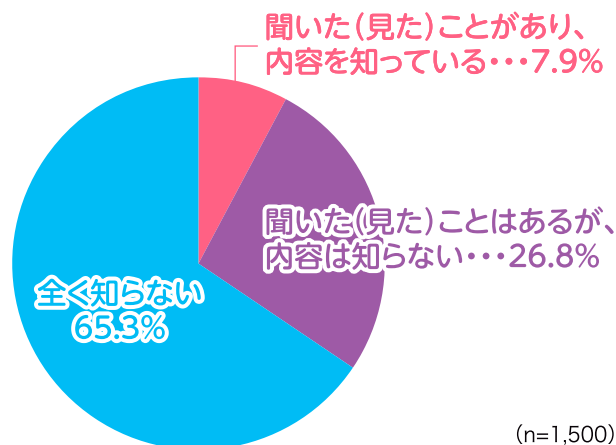
調査対象：全国の20～60代の男女 1,500人

調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2018年1月

Q 1. 「非認知的能力」の認知度

20～60代の社会人に「非認知的能力」という言葉を知っているのか尋ねたところ、「聞いた（見た）ことがあり、内容を知っている」（7.9%）と「聞いた（見た）ことはあるが、内容は知らない」（26.8%）と合わせると、「非認知的能力」という言葉を3割強の人が知っていると回答しています。

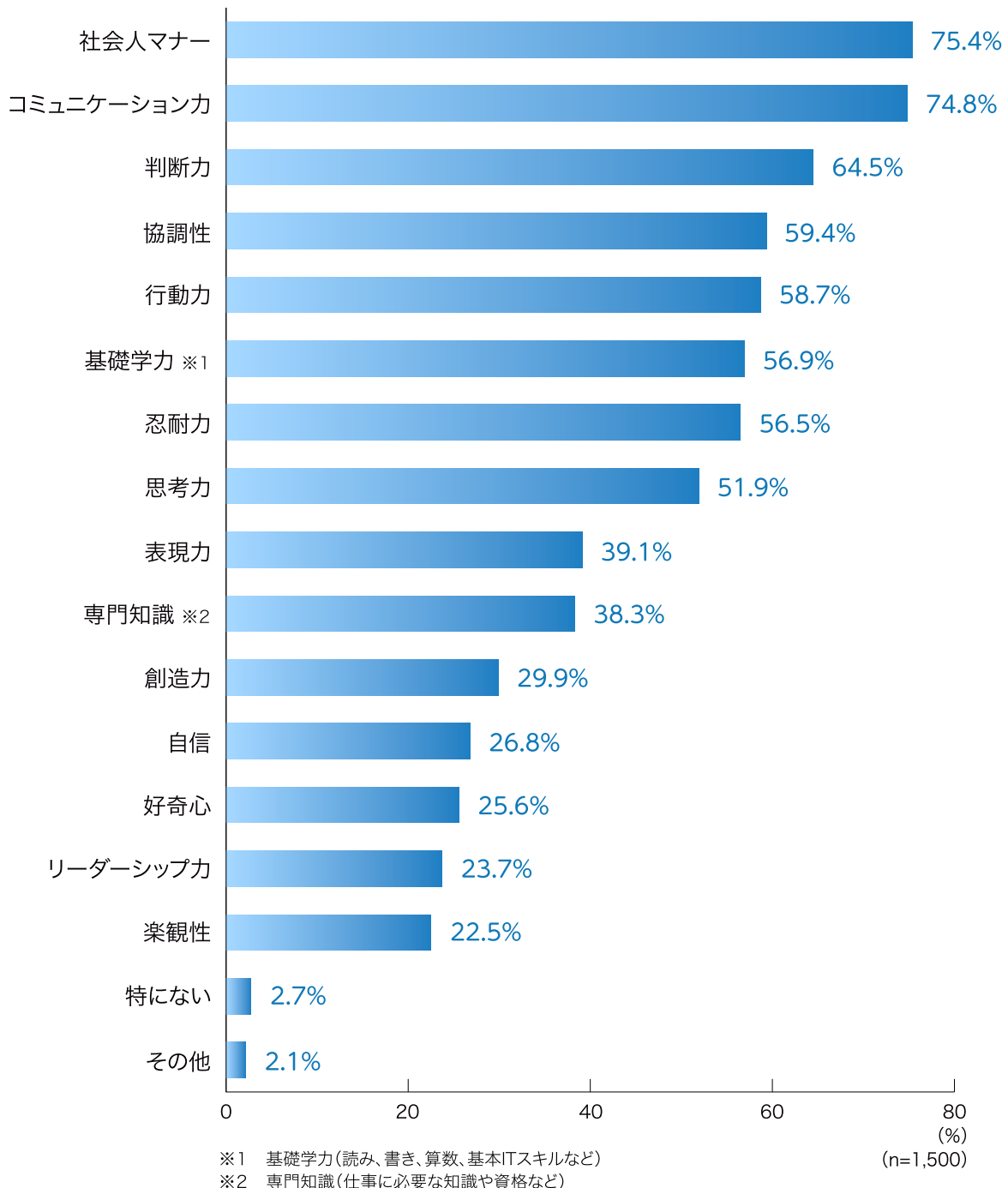


※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

【図1】 あなたは、「非認知的能力」という言葉を知っていますか。（単数回答）

Q 2. 社会で必要な力

自分自身が社会に出て仕事をする上で必要と思った力は、「社会人マナー」(75.4%)と「コミュニケーション力」(74.8%)が圧倒的に多く、続いて、「判断力」(64.5%)、「協調性」(59.4%)、「行動力」(58.7%)といった数値化が難しい能力が上位にあげられています。次に、「基礎学力」(56.9%)という数値で認知できる能力が入りましたが、その次も、「忍耐力」(56.5%)、「思考力」(51.9%)、「表現力」(39.1%)などの非認知的な能力が多いという結果になりました。



【図2】 あなたが、社会に出て仕事をする上で必要だと思った力は何ですか。(複数回答)


Q 3. 子どものときに伸ばしたい力

子どものときに伸ばしたい力・身につけておきたいと思う力は、「自分の意見や考えをきちんと他者に伝えられる力。」(50代女性)、「ディスカッション能力と自己主張できる心。」(30代女性)、「自分の考えを示せる。自ら考えて行動する力。」(20代女性)といった自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション能力や、「型にはまらない自由な発想力。」(40代女性)、「自分の未来を想像できる力。目標があればいつかたどり着ける。」(40代男性)などの思い描く力や、「すぐ投げ出さずに継続してする姿勢。」(60代男性)、「あきらめない力、挑戦する力。」(30代男性)など、やり抜く力などがあげられました。

- 自分の意見や考えをきちんと他者に伝えられる力。(50代女性)
- ディスカッション能力と自己主張できる心。(30代女性)
- 自分とは明らかに異なる価値観の持ち主がいること。(50代男性)
- 自分の考えを自分の言葉で話す能力。(50代女性)
- コミュニケーション能力と自分と他人との違いを意識できること。(60代男性)
- 自分の考えを示せる。自ら考えて行動する力。(20代女性)
- 基本的な学力とともに、新しいことを学んで身につける学ぶ力と、どんな人からも学べる人間力。(30代女性)
- 型にはまらない自由な発想力。(40代女性)
- 自分の未来を想像できる力。目標があればいつかたどり着ける。(40代男性)
- 他者の気持ちを想像する力。自分の言動が誰にどんな影響を及ぼすか想像する力。(20代女性)
- 広い視野をもつこと。多様性を認めること。(60代女性)
- すぐ投げ出さずに継続してする姿勢。(60代男性)
- 興味があることには上手くいかなくても何回もチャレンジする力。(50代女性)
- 何事も自分の思い通りにはならないと思う忍耐力。(50代男性)
- あきらめない力、挑戦する力。(30代男性)

(n=1,500)

【表1】 子どものときに伸ばしたい力・身につけておきたいと思う力は、どのような力ですか。(自由回答)

 まとめ

社会が急速に変化していく中で、学力だけではなく「非認知的能力」(Non Cognitive Skills)の必要性が高まっています。その「非認知的能力」を育む過程において、学童期は、子ども同士の関係や思考・認知力の質が変化する発達段階だからこそ獲得できる「非認知的能力」があるという研究も進んでいます。

今回、20～60代の社会人を対象に、「非認知的能力」の認知度を調べたところ、「非認知的能力という言葉聞いた(見た)とがある」という回答は3割強でしたが、社会で必要と思う力について聞くと、「コミュニケーション力」(74.8%)、「判断力」(64.5%)、「協調性」(59.4%)、「行動力」(58.7%)、「忍耐力」(56.5%)、「思考力」(51.9%)、「表現力」(39.1%)などの非認知的な能力が多いという結果となり、子どものときに伸ばしたい力・身につけておきたいと思う力についても、自分の考えを相手に伝えられるコミュニケーション能力や、型にはまらない自由な発想力、相手の気持ちや未来を思い描く力、困難なことに対しても粘り強く立ち向かう忍耐力、最後までやり抜く力などがあげられたことから、「非認知的能力」が重要であることがわかりました。

子どもの未来につながる力・学びへ向かう力の形成には、学童期の「非認知的能力」の育成が重要と言えます。その「非認知的能力」をどのようにして育てていくのか、学童期の豊かな体験・機会を通じて、子どもが楽しみながら「非認知的能力」を伸ばす体験やプログラムが求められています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>